

分別向上
で廃棄物

月間3000t受け入れへ

加山興業

RPF安定供給確立 信頼性高め5000t目指す

廃棄物の処理を手がける加山興業（名古屋市中）は、廃棄物受け入れ量月間三〇〇〇t体制の確立を目指している。長年の業務で培った分別技術を更に向上させていくことでリサイクルの用途を広げ、取引拡大を図っていく考えだ。現在は平均で二五〇〇tを超えており、早い時期に達成できる見込みだ。RPF製造も行っており、製紙会社などに安定供給を行っている。今後も更に信頼性を向上させ、三〇〇〇tを達成した後は五〇〇〇t受け入れできる処理業者を目指して、設備や体制などを見直していく。



屋上に看板と共に風車を設置

同社は愛知県豊川市内の施設にリサイクルプラント（破碎、選別）、RPFプラント、焼却プラント（焼却、乾燥）、蛍光灯破碎プラントを設け、様々な廃棄物の受け入れを行っている。廃棄物の受け入れ量は徐々に拡大してきており、一年前は平均一九〇〇tだったのが、現在では二五〇〇tを超えている。三〇〇〇t突破を目標に掲げているが、同社の加山順一郎取締役は、「早ければ八月には達成できる見込み」とする。

三〇〇〇tの達成を目

前に、新たな目標として五〇〇〇t処理を視野に入れている。「五〇〇〇tとなった場合、現状の施設で処理が可能か、増設する必要があるかなどを見極めていく方針だ。

RPFプラントでは、月間千数百tのRPFを製造。大手製紙会社などに燃料として供給している。昨年十月に火災事故を起こしたが、比較的早い対応で再開できたの

リサイクルプラントでは詳細な分別が行われている

同社の強みは「分別技術の高さ」（同氏）だといふ。二〇〇二年十二月に廃棄物を「破碎・分別し単品にする」施設として、リサイクルプラントを設置。ここで詳細な分別が行われている。リサイクルプラントには破碎

